

NCC HEADLINE

【日本キリスト教協議会 最新情報】 毎月 21 日付に掲載

アジア祈祷日 祈りをともに「うめく被造物に与えられる希望」

今年のアジア祈祷日は、5月17日（日）です。これは、アジア・キリスト教協議会（CCA）が毎年、ペンテコステの前の日曜日に、アジアの諸教会へ呼びかけている共通の祈りの日です。CCAはこの日を、アジアの教会がひとつの主題のもとに礼拝をささげ、祈りをともにする機会として位置づけています。これまでも、平和、和解、人権、被造世界の回復など、その時々のアジアの課題を受け止めながら守られてきました。

2026年のテーマは、「うめく被造物に与えられる希望」です。中心となる聖書箇所は、ローマの信徒への手紙8章19～23節。「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている」というみ言葉に導かれながら、アジアの現実を深く見つめています。そこには、環境破壊や気候危機だけでなく、戦争、政治的混乱、抑圧、貧困、格差、人身取引、若者たちの不安や孤立など、今日のアジアが抱えるさまざまな痛みが含まれています。こうした苦しみを「被造物のうめき」として受け止め、教会がそれを祈りのうちに担うよう招いています。

しかし、この祈りの中心にあるのは、危機の告発だけで

はありません。ロマ書8章が語るのは、うめきの中にある希望です。被造物は滅びへと引き渡されたままで終わるのではなく、約束されている神の贖いと回復を待ち望んでいます。私たちもまた、現実の重さに押しつぶされるのではなく、まだ見ていないものを待ち望みつつ、忍耐をもって歩むよう招かれているのです。アジア祈祷日は、その希望をアジアの教会とともに分かち合う日です。

今年のアジア祈祷日に、それぞれの教会でこの祈りに加わっていただければと願います。礼拝や祈祷会、個人の祈りの中で、アジアの教会とともに心を合わせましょう。うめきのただ中にあっても、神は新しいいのちと回復を備えておられる。その希望を、今年もアジアの教会とともに告白したいと思います。（鄭詩温 ちょん・しおん＝在日大韓基督教会、CCA常議員）

＊式文の中から「共同の祈り」を和訳してNCCホームページに掲載しています。アジア祈祷日献金は、アジアのエキューメニカル運動参加促進のために用いられます。送金の際には「アジア祈祷日献金」とご記入ください。

「からふるカフェ」と「からふるな仲間たち」
外国にルーツを持つ人々とともに

2017年末より、外キ協（外国人住民基本法制定を求める全国キリスト教連絡協議会）、CMIM（マイノリティ宣教センター）、NCC（日本キリスト教協議会）在日外国人の人権委員会の共催で、日本社会で暮らしている外国にルーツを持つ方々から、ライフストーリー・日本社会の中で感じたこと・考えたことを話していただく「からふるカフェ」というプログラムを行っています。これまで6期にわたってお話をうかがってきました。第1期終了後、お話しいただいた内容を多くの方に知ってもらいたいと願い、みなみななみさんのご協力を得て「まんが」化することとなりました。2018年8月に第1期4人の方々のお話をまとめた冊子「からふるな仲間たち」の第1集が発行され、現在第6集まで発行されています。

それぞれの方のエピソードと、解説を兼ねた「みんなで考えてみよう」で構成されています（B5判・20頁・100円＋送料）。教会学校や研修会の教材、学校の授業のサブテキストとして活用いただけたら幸いです。今、世界全体で多様性の否定と排外主義が声高に叫ばれています。しかし、多様性で衰退した社会など無く、むしろ排外主義が社会を破壊してきたことを歴史は教えています。私たちの行っていることは本当に小さな取り組みではありますが、これを通して、多様性の豊かさこそが神の造られた世界の豊かさであり、平和の証しであることを分かち合っていてゆきたいと願っています。

5月9日のオンライン集会「からふるな仲間たちは、いま」（主催・共催集会参照）にも、ぜひご参加



ください。（李明生 り・あきお＝日本福音ルーテル教会、NCC在日外国人の人権委員会）

＊ご注文はマイノリティ宣教センター（☎03-6228-0509、FAX 03-3202-4977、Email inf@cmim.jp）まで。右記のQRコードから専用フォームもご利用いただけます。



【委員会の予定】

- 4月30日（木）「障害者」と教会問題委員会
- 5月4日（月）靖国神社問題委員会
- 5月11日（月）ドイツ語圏教会関係委員会
- 5月13日（水）女性委員会
- 5月23日（土）ジェンダー正義ワーキンググループ



NCC ホームページ <https://ncc-j.org/> Facebook 日本キリスト教協議会 TEL 03-6302-1919 FAX03-6302-1920 Email general@ncc-j.org
郵便振替 00180-4-75788 加入者名 日本キリスト教協議会

教派を超えた出会いと学び
新卒者エキューメニズム研修会

NCC教育部は去る3月10日、神学校新卒者エキューメニズム研修会を東京・西早稲田のアバコ・チャペルと日本キリスト教会館を会場に開催しました（日本キリスト教団出版局、日本聖書協会協賛、NCC後援）。今年は3教派四つの神学校から新卒者7名を迎え、午前中は公開講演会、午後はお祝いの会、エキューメニカル・ツアー、派遣礼拝というプログラムで進められ、新鮮な出会いと学びの時を過ごしました。

公開講演会の講師はキリスト新聞編集長の松谷信司さん。演題は「知っておきたい10のこと——教会に赴任する前に・牧師を迎える前に」。会場参加28名に加えて、オンラインで全国各地から31名が参加し、「牧師も人間だもの、休息は『権利』ではなく『義務』」「教会は牧師が休める体制を整備しよう」、「牧師招聘は教会を見直す絶好のチャンス」など、具体的な課題に切り込む講演に熱心に耳を傾けました。

午後は新卒者と研修会実行委員などが共に食卓を囲み、交わりの時間を過ごしました。神学校は3教派でしたが、参加者21名の所属は6教派にわたり、新卒者の中からは初めて他教派の



派遣礼拝の様子

人と同席したという声も聞かれました。「遣わされた地ではお隣の教会はきっと他教派。教派の違いを超えて出会ってください」と、NCC教育部の石田学理事長からお勧めがありました。エキューメニカル・ツアーでは、日本キリスト教会館内のキリスト教諸団体を訪問し、多岐にわたる活動の実際を学びました。1階の日本盲人キリスト教伝道協議会では、岸岡宏幸主事から『「視覚障がい者が来会されたら点字聖書を』ではなく、『点字聖書がありますから、いつでもどうぞ』という姿勢を』と背中を押され、5階の外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会では佐藤信行顧問から、各地の教会が取り組んでいる外国人の人権にかかわる課題について聞き、「困ったことがあったらいつでも相談を」と励まされました。

1999年から始まった研修会に参加した延べ200人を超える新任牧師のみなさんは、今、どうしておられるでしょうか。派遣礼拝での祈りの言葉「わたしたちの前には長い道があります。神は言われます、『わたしはあなたと共にいる』。共に立ち上がるために、互いに励ましあいましょう」を忘れないでほしいと願っています。（大嶋果織 おおしま・かおり＝日本基督教団、NCC教育部総主事代行）

■2026年度平和のきずな献金概要

NCC教育部がキリスト教教育週間（10月第三日曜～第四日曜）に呼びかけている「平和のきずな献金」の2026年度の献金先が、以下のように決まりました。3月24日に開催された教育週間委員会で、ポスターと趣意書の内容、献金先の子どものたちの状況を知るための学習資料作成について話し合いました。7月上旬には広報できる予定です。（事務局）

- ①国外献金
 - ・ブラジルの二つの教会が取り組む青少年育成プログラム（「ラテンアメリカ・キリスト教」ネットを通して）
 - ・バングラデシュの障がいを負う子どもの教育支援（日本キリスト教海外医療協力会を通して）
- ②国内献金
 - ・アイヌ奨学金（アイヌ奨学金キリスト教協力会を通して）
 - ・外国にルーツがある子どもの支援（福島移住女性支援ネットワーク、四国朝鮮初中級学校を通して）
 - ・NCC教育部平和教育推進基金



NCC 教育部 ホームページ <https://nccj-edu.jimdofree.com/> TEL/FAX 03-3203-0731 Email nccjedu@gmail.com
郵便振替 00150-8-98713 加入者名 日本キリスト教協議会教育部